

## 謝 辞

武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻博士前期課程には2014年9月に入学し、2017年4月に同大学院国際コミュニケーション専攻博士後期課程に1期生として入学して以来、研究指導教員の佐々木隆教授には博士前期課程からご指導をして戴いた。博士論文に必要な文献の資料の収集でも大変お世話になった。また、同大学の国際センターの先生方や職員の皆様には留学ビザの延長等、ご尽力戴いた。

研究面では『養生訓』の研究で博士号を取得された謝心範教授には研究の着想において大きな啓発を受けたと同時に、大きな支えとなった。また、日本の古典籍の著者不詳『有馬山温泉小鑑』の現代語意識では高橋恵美子教授の御指導の下、現代文に訳すことができたこと、学内の研究発表でいつもご助言を戴いた林猛教授をはじめ、多くの先生方には機会あるごとに声をかけて戴き、博士論文の提出、口頭試問にこぎつけることができた。

武蔵野学院大学大学院への留学が博士の学位取得と言う形で有終の美を飾れることは大きな喜びだ。修士論文提出後に博士後期課程の進学を決意したことから、受験までの半年間を研究生として過ごし、博士後期課程に入学して半期を過ぎた頃、貝原益軒の『養生訓』を研究テーマとして、此度博士論文まで辿りついた。実際に博士論文に取り組んでみると、もっと読まなくてはならない文献が山ほどあることに気付いたが、課程博士としてできる範囲でまとめてみた。研究の奥深さを改めて感じた。今回十分に読むことのできなかつた貝原益軒の『願生輯要』や『大和本草』などにも今後取り組んでみたい。